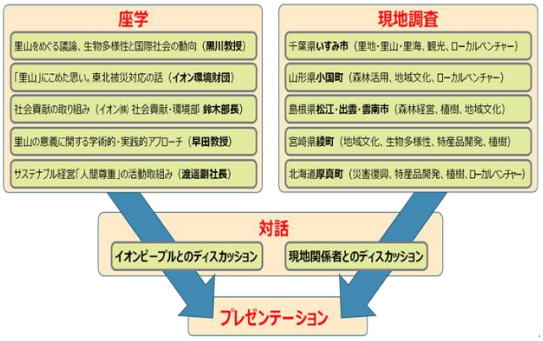
AEON TOWAリサーチセンター	
題目	イオン環境財団寄附講座 サスティナブルコミュニティ論の講座開設について
著者	早稲田大学　永井祐二　岡田久典　中野健太郎　李洸昊

1. 概要

当リサーチセンターは、双方のこれまでの経験や知見、学術研究を結合し、環境をはじめとした地域課題対応や人材育成などを通じて、新たな価値を創造する持続可能な社会「サステイナブルコミュニティ（ここでは「里山」を中心に据える）」の実現をめざし、早稲田大学社会科学部において（公財）イオン環境財団の寄附講座を設置した。



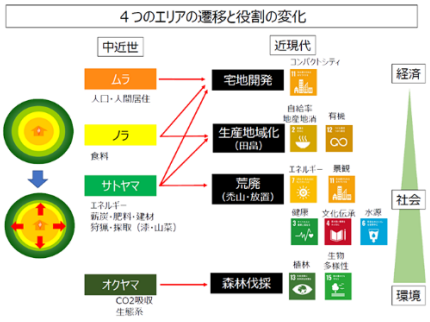
2. 実施内容

① 座学の実施内容

本講座では本学教員による里山理解に繋がる講義と、イオンの現場で取り組まれている新しい社会づくりの試みが語られた。ガイダンスの他、実施された座学は以下の通りである。

オムニバス形式の講義であるが、「イオンの里山」という価値観を巡って、議論が展開され、持続可能な社会のあり方への理解を深めることを意図している。

1. 山をめぐる議論、生物多様性と国際社会の動向（黒川）
   里山の本来の定義、生態系サービスの創出、生物多様性の保全などの効果、国際的な注目を解説した。里山維持の課題、環境保全や経済性の回復における役割を説明した。
2. 里山にこめた思い。東北被災対応の話（イオン環境財団）
   イオン環境財団の大規模に行われる世界各地での植樹の取り組みに加えて、東日本大震災を例とした災害時の店舗機能を活用した地域への貢献、さらに植樹から始まる新しい地域づくり取り組みが説明された。
3. 社会貢献の取り組み（イオン㈱環境社会貢献部 鈴木部長）
   イオングループのサステナビリティに対する基本方針の解説から、企業全体で取り組む資源循環の促進、脱炭素社会の実現、生物多様性の保全などが説明された。
4. 里山の意義に関する学術的・実践的アプローチ（早田）
   里山の概念・用語の解説、利用形態の変遷を学術的な観点から整理した。旧来の里山の生態系サービスの利用の観点だけでなく、文化的にも重要な位置づけを解説し、SDGsに繋がるマネジメントの可能性があることを示した。



※早田授業資料より

5. サステナブル経営「人間尊重」の活動取組（渡邊副社長）
   イオンのトップマネージャから直接講義の機会を設定できた。社会の変革を先取りする企業経営の話や、社会の新しい捉え方を解説し、本講義で議論する地域社会の持続性から地球の持続性に繋がる世界観に理解を深めた。持続可能な経営を支える 「人」の育成に力を入れる企業方針に重点を置いて解説がなされた。

地球の持続性に繋がる世界観に理解を深めた。持続可能な経営を支える 「人」の育成に力を入れる企業方針に重点を置いて解説がなされた。

② フィールドワークの実施内容

1. 千葉県いすみ市（里地・里山里海、ローカルベンチャー）
   里海里山が一体的に感じられる場所や産品、移住者によるローカルベンチャーを視察した。

2. 山形県小国町（森林活用、文化、ローカルベンチャー）
   森林資源を活かした活動を視察した。地域資源を生かしたローカルベンチャーの視察を行った

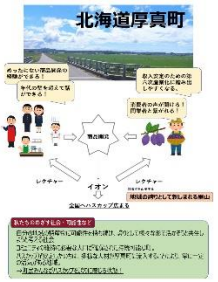
3. 島根県松江・出雲・雲南市（森林経営、植樹、地域文化）
   イオンの森で植樹を実施したほか、古来から続く出雲の国の森林経営を学んだ。

4. 宮崎県綾町（地域文化、生物多様性、特産品開発、植樹）
   貴重な照葉樹林を守る活動の一環で行われるイオンの森づくりの現場を視察し、里山を果樹栽培や有機農業、草木染めなどの取り組みを視察した。

5. 北海道厚真町（災害復興、特産品開発、植樹、ローカルベンチャー）
   大規模な地滑り災害から復興する地域再生の取り組みとして地域のベンチャーの話を伺い、特産であるハスカップ農園の取り組みを視察した。さこれらに寄り添うイオンの森づくりの現場を視察した。

③ プレゼンテーションの実施内容

本講座の最終成果発表は視察先グループごとの提案発表という形で行った。視察を通じて発見した可能性ある地域資源を整理し、これを視察先地域と大学・イオンの連携で活かす仕組みができないか、新しい価値が創出できないかを検討し、その過程をプレゼン資料にまとめるという取り組みを行った。



3. 総括

本講座は座学と現地視察から構成する学部向けの授業科目としては特殊なものであり、受講した学生にとっては得がたい機会となった。寄附をいただいた公益財団法人イオン環境財団および、視察先でお世話になった方々に感謝申し上げる。

コロナ禍でリアルな座学もなかなか行えず、ましてや現地視察の経験も全くなかった学生もあり、本視察が得がたい経験となり、改めて地域や環境に関心を持つきっかけとなったと考えられる。将来、里山に関する学びを通じて、次の社会に貢献する人材となっていくことを期待する。